

渡航医学に関する薬の話 ～日本国内の医療者をお願いしたいこと～



中島 敏彦¹⁾, Dr. Truong Hoang Phu Phi¹⁾, 原田 寛²⁾,
宮内 由佳³⁾

¹⁾ Raffles Medical HCMC 総合診療医, ²⁾ Raffles Medical HCMC 看護師,

³⁾ Raffles Medical HCMC 臨床心理士

2018年の海外在留邦人数調査統計によると2017年10月1日の時点での在留邦人総数（長期滞在者と永住者の合計）は1,351,970人で、特にアジア地域には全在留邦人の約29.1%の393,276人（そのうち長期滞在者は361,695人）が住んでおり、年齢別に見ると20歳未満が22.5%、20歳代が8.1%、30歳代が16.0%、40歳代が23.8%、50歳代17.0%、60歳代以上が12.6%を占めていた。

さらに長期滞在者の地域別職業構成で見ると、民間企業に従事する長期滞在者が463,700人であり、そのうちアジアの民間企業で働く人は257,259人（53.4%）と半数以上を占めている。現在多くの日本企業が東南アジア諸国を"チャイナ・プラス・ワン"として見定め進出しており、産業保健的にも今後ますます重要な地域になると考えられる。

100人に1人の日本人が海外に住む現在、我々医療者が自身の患者を通じて海外の医療と関わることは決して珍しいことではなくなっている。演者は2013年より、シンガポール、北京（中華人民共和国）、ハノイ、ホーチミン（ベトナム社会主義共和国）で総合診療医として国際クリニックに勤務をし、主に在留邦人の診療に従事してきた。ベトナムのホーチミンでは現在日系企業の進出が他の在留邦人社会と比べても特に盛んであり、ホーチミン日本商工会議所の会員企業は2018年9月の報告では約980社となり、上海、バンコクに次ぐ世界第3位の規模となっている。現在のベトナムと日本の良好な関係を鑑みると今後も増えるものと予想されている。

今回の報告ではこれら3ヶ国4都市での経験を通じて学んだ渡航医学的なことや、特に在留邦人社会で遭遇する特殊な医学的問題を、薬物に関わる話題を通じてわかりやすくお伝えすることができたら幸いである。

【略歴】

2003年 千葉大学医学部附属病院 泌尿器科

2004年 東京厚生年金病院 泌尿器科

2008年 沼津市立病院 泌尿器科

2009年 静岡県立静岡がんセンター（沼津市立病院より出向）緩和医療科

2010年 沼津市立病院 緩和医療科 / 泌尿器科

2012年 東京厚生年金病院 泌尿器科 / 緩和ケアチーム

2013年 日本メディカルケア（シンガポール）総合診療医

2014年 International SOS（北京、ハノイ）総合診療医

2017年 International SOS Clinic 部門と Raffles Medical Group 合併に伴い Raffles Medical International Clinic in Ho Chi Minh と名称変更 総合診療医 Business Development Consultant

【資格等】

General Practitioner 於 ベトナム

WONCA Life Direct Member

日本病院総合診療医学会 認定医

日本泌尿器科学会 専門医

日本医師会 認定産業医

Clover Plus Co.,Ltd 所属 医療産業アドバイザー

サイエスト株式会社 所属 医療産業アドバイザー

JMT Joint Advisory アドバイザー